

2016 通学路にあるお店の活性化

私たちは、女学院生と地域のお店との繋がりを深めたい、より多くの人にお店のことを知って欲しいという思いで活動を続けてきました。大学から門戸厄神駅までの道を「KC ROAD」と名付け、そこにあるお店を知ってもらい、来店してもらうことが地域活性化につながるのではないかと考え、お店の紹介マップ「KC ROAD MAP」を作成しました。

マップ作りをする、とは決まったものの、具体的にどのエリアのマップを作るのか、どうしたら女学院生がお店に入ろう！と思えるマップが出来るのか分からなかったため、私たちはまず、門戸厄神地域活性化委員会が主催する「門戸井戸端会議」に参加し、地域の方に意見を頂くことにしました。「門戸井戸端会議」とは、老若男女誰でも参加でき、決められた話題がないため門戸厄神地域について自由に話すことができる会議です。井戸端会議に参加されている地域の方々はとても優しく協力的で、定期的に参加し、マップ作りの過程で様々なアドバイスを頂くことが出来ました。さらに、「昔から女学院生は門戸厄神を通り過ぎてしまい、新しいお店ができても見えてくれない」といった声や、「学生がなぜお店に寄ってくれないのか、興味を持ってもらうにはどうすれば良いのか」などの実際に商店をされている方からご質問を受けるなど、とても有意義な時間となりました。



また西宮市観光協会にも赴き、西宮市が発行している地図や、武庫川女子大学の学生が作成した地図など、マップ作りの際に参考にできるものを沢山紹介していただきました。お店を紹介する際は、料理だけではなく、店員さんの写真も載せることなど、今後のマップ作成にあたっての多くのヒントを得ることができました。また、そもそも普段お金を通学で使うのか、自分たちにとってお店に入りやすいとはどういうことか、マップにどういう情報が載っていると嬉しいかなど、大学生の普段の生活を学生目線で考えることの必要性も学びました。



夏前には、いよいよマップ作成に取り掛かりました。まず通学路にあるお店をリストアップし、企画書をお持ちして、取材とマップ掲載の交渉を行いました。メンバーで分担しながら実際にお店を利用し、お勧めメニューを見つけるなど、学生目線でのお店の魅力を探しました。どのお店の方も暖かく迎えてくださり、結果6店舗にご協力いただけることになりました。



10月21日（金）、22日（土）の大学祭において、「KC ROAD MAP」を配布しました。配布に伴ってデザインの印象やマップの内容についてのインタビュー調査を行い、さらなる改良を重ねていきました。



ついに「KC ROAD MAP～私たちの通学路～」の完成です！お店の方のご協力によって、第二版にはクーポンをつけることが出来ました。有効期限は2016年11月21日（月）から12月9日（金）までの約3週間とし、ゼミ、部活動、授業で約700部、正門などでの配布で約500部、お店への設置で約300部配布し、全部で1500部のマップを配布しました。さらに配布後、マップ配布にどのような効果があったのかを知るため、計567人の女学院生を対象に、アンケート調査・解析を行い、報告書としてお店の方へお渡ししました。

アンケート項目として①マップ配布前からお店を利用していたか②配布後、マップを利用してお店に行ったか③これからもお店を利用しようと思ったかなどを上げ、お店ごとに回答してもらいました。

その中の1店舗では、【マップ配布前からお店を認知していたが、「外観が入りづらい」「値段が分からない」という理由から利用していなかった学生が多かった。それを踏まえマップでは、店内の写真を付けて値段を提示し、さらにクーポンを掲載したところ、女学院生の利用率が向上した。学生の不安に思っていたことが解消されたことが理由として考えられる。】といった嬉しい結果も得られました。



マップ配布後にお店の方にもアンケートを行ったところ、このマップの取り組みについてどう思ったか?という質問に対し、「大学と地域で繋がりを持つ機会があることはいいと思う」「より多くの店舗、地域の人々、学生にもっと認知してもらえたらより良い企画ができるのではないか」「今後も続けてほしい」という嬉しいお声もいただきました。店内に設置したマップを見て興味を持ち、手に取ってくださる地域の方もいらっしゃったそうです。

さらに「今後も神戸女学院生とかかわりを深めたい、またその場合はご協力する」と仰ってくださったお店が多く、色々なイベント案をご提案いただきました。「一時期でなく、年間通した活動であれば、地域活性に繋がると思う」との意見もあり、ぜひ後輩たちにもこの活動を引き継いでもらいたいと考えています。



今回の活動で、たくさんの地域の方にお世話になりました。また、その中で私たちの意見を尊重し、喜ん

でくださる方が多くいらっしゃり、これからも女学院生は地元の方とのつながりをもっと積極的に行うべきだと感じました。マップ作りによって、地域活性化を目に見える形に表すことは、今回はできなかつたと思います。しかし、女学院生に地域のお店を知ってもらう良いツールができました。そして、中にはマップを見て始めてお店を訪れた学生もいました。女学院生が気軽にお店を利用し、地域がもっと元気になるためには、これからも地域と大学を繋ぐためのツールやイベントをどんどん行っていくべきではないかと思いました。ここで活動が終わらないように、さらに範囲を広げた活動が継続することを期待しています。